

1. 第24回全国大会・開催報告(2016年11月5日(土), 東京大学 山上会館)

2016年11月5日(土), 東京大学 山上会館にて, 第24回全国大会が開催されました。ご参加頂いた多くの方々, 開催に当たり, ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。以下にて, 大会プログラムの概要をご報告いたします。

- ◆開会式: 10:00~10:10 挨拶: 大会実行委員長/会長 須藤 修
- ◆午前の部 研究発表会: 10:10-12:10
 - <第1セッション>「メディア産業Ⅰ」(会場: 201・202)
 - <第2セッション>「地域コミュニティと情報システム」(会場: 203)
 - <第3セッション>「情報サービス」(会場: 001)
- ◆基調講演: 13:10~13:50 (大会議室, 2階)
講 師: 高木 聡一郎(国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 准教授/主幹研究員)
テーマ: オープン・データ・シェアリング・ブロックチェーンに見る分散型社会の可能性と課題
- ◆贈賞式: 13:50~14:10 (大会議室, 2階)
- ◆午後の部 研究発表会: 14:30-16:10
 - <第4セッション>「メディア産業Ⅱ」(会場: 201・202)
 - <第5セッション>「社会情報」(会場: 203)
 - <第6セッション>「地域情報」(会場: 001)
- ◆総会: 16:20~16:50 (大会議室, 2階) 報告: 須藤 修(情報文化学会 会長)
- ◆交流会: 17:00~19:00 (会場・1階談話ホール・レストラン: ハーモニー)

2. 第23回 通常総会のご報告

第23回通常総会(議長: 須藤 修 会長)において, 以下の議案(審議事項)が承認された。

- ・2016年度活動計画に関する件((1)第24回全国大会, 第25回全国大会開催 (2)会計に関する件 1)2014年度決算報告 2)2015年度予算案))
- ・学会誌・ニュースレターの発行 (学会誌 23巻1号, 2号, ニュースレターNo. 59号を発行)
- ・支部・部会・委員会お活動: 例年通りの予定
- ・平成28年全国大会以降3年任期の役員選挙 (役員選挙の結果は, 2017年11月5日(土)16時10分開催の第36回役員会で承認。新役員は別紙参照)

- ・定款の一部改訂（第18条：本学会には次の役員を置く。名誉会長1名，会長1名，副会長3名以内，理事若干名，評議員若干名，監事3名以内（以下略） 第26条：役員会は，会長，副会長，理事および評議員をもって構成する。（以下略）
- ・学会費未納者の扱い
- ・学会誌投稿論文の著者1の資格
- ・会員数の推移

3. 2015年度 会計報告

2015年度の会計報告については，下記の資料を参照

2015年度 収支決算書（自2015年4月1日 至2016年3月31日）

収入の部 科目	金額 (単位：円)	差 額 (予算・実績)
入会金・会費	1,575,000	+25,000
広告協賛金	1,100,000	+50,000
大会参加費	248,420	-51,580
学会誌・抜き刷り料	330,000	0
雑収入	1,196	—
前期繰越金	3,720,377	—
収入合計	6,974,993	+23,420

支出の部 科目	金額 (単位：円)	差 額 (予算・実績)
印刷製本費	1,314,139	+18,420
事務処理費	250,216	+216
通信費	42,266	発送費と合算
発送費	110,288	-17,446
交通費	51,360	+1,360
研究・会議費	10,108	-59,892
消耗品費・雑費	57,604	+27,604
大会運営費	223,188	+23,188
会場会議費	103,832	—
支出合計	2,163,001	-6,550

2016年度 収支予算書（自2016年4月1日 至2017年3月31日）

収入の部 科目	予 算 額 (単位：円)
入会金・会費	1,600,000
広告協賛金	1,100,000
大会参加費	300,000
学会誌・抜き刷り料	110,000
収入合計	3,110,000

支出の部 科目	予 算 額 (単位：円)	備 考
印刷製本費	1,350,000	学会誌・予稿集他
事務処理費	50,000	
通信費	90,000	Web管理費
発送費	100,000	学会誌他
交通費	100,000	
研究・会議費	70,000	支部活動
消耗品費・雑費	20,000	
大会運営費	250,000	
会場会議費	110,000	
支出合計	2,140,000	

4. 2016 年度 支部・部会報告

北海道支部総会・研究会

開催日：2016年5月22日(火)13:00～16:35, 会場：北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院 105 教室

関東支部研究会

開催日：2016年3月12日(火)13:00～16:50, 会場：立正大学情報センター会議室

中部支部研究会

開催日：2016年9月24日(土)13:30～16:30, 会場：名古屋大学情報文化学部(全学教育)棟 4F SIS4 教室

MOT部会

開催日：2016年9月30日(金)18:00～20:00, 会場：野村総合研究所・会議室(丸の内北口ビル9F)

九州支部研究会

開催日：2017年2月11日(土・建国記念日)12:55～16:30, 会場：都城工業高等専門学校(宮崎県都城市吉尾町473番地の1) 専攻科棟 2階 多目的ホール

東北支部研究会

開催日：2017年3月8日(水)13:00～16:00, 会場：岩手県立大学共通棟 B4 階マルチメディアラボ

近畿支部研究会

2016年度は休会。2017年度は7月2日の予定。

5. 第25回全国大会開催のご案内

第25回全国大会は2017年10月7日(土)に、名古屋文理大学(愛知県稲沢市)で開催いたします。発表のエントリー方法、発表原稿等の受付方法は下記をご参照ください。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

5.1 統一テーマ、会場について

* 統一テーマ：未定

* 日時：2017年10月7日(土), 10:00～19:00

* プログラム：開会式, 研究発表, 基調講演, 贈賞式, 総会, 交流会

* 会場：名古屋文理大学(〒492-8520 愛知県稲沢市稲沢町前田 365)

アクセス：<http://www.nagoya-bunri.ac.jp/information/access.html>(名古屋文理大学・ホームページより)

* 大会参加費：5,000円(一般会員), 3,000円(学生会員), 交流会費：5,000円(一般会員), 3,000円(学生会員)

参事会員は大会参加費は不要です。

5.2 発表のエントリーについて

* お申込みに際しては、「一般発表」、もしくは「ポスター発表」、どちらを選択されるかをご報告ください。

(1) エントリー期間/エントリー先

① 受付期間：2017年7月1日(土)～7月7日(金)

② 受付先：jics.conference2017nagoya@gmail.com (全国大会 発表申込・受付担当 宛)

(2) ご提出物「発表題目」、「発表者の氏名・所属」及び「連絡先(住所、電話番号、メールアドレス)」、「キーワード(3～5つ)」を記載した文書(ビデオデッキ、DVD デッキ等を会場側で準備する必要がある場合、この文書にその旨を記載してください)

* 注意：発表の順番・時間帯についての希望は受け付けられません。

(3) 『講演予稿集』の原稿受付

- ① 原稿の様式: A4 で 2 枚~4 枚: 「MS-Word 版」と「PDF 版」、両方をご提出ください。
- ② 締切: 2017 年 7 月 31 日(月)
- ③ 受付先: jics.conference2017nagoya@gmail.com (全国大会 発表申込・受付担当 宛)

5.3 全国大会 第3回「自由討議」のご案内

第22回全国大会で、「情報文化学に向けて1」と題する自由討議の場が設けられました。情報文化学の理論構築を目指す第1段階の議論がなされ、須藤会長、伊藤理事から建設的な基本提案がなされました。2017年度は第3回目になります。より具体的に考察していきますので、皆さま、積極的にご参加ください。

6. 第23回 情報文化学会賞のご案内

「第23回 情報文化学会賞」の対象を公募いたします。2017年10月7日(土)に開催される第25回全国大会で贈賞式をおこないます。学会ホームページに掲載される「情報文化学会公募・推薦要綱」をご覧の上、適格な方をご推薦ください。

<情報文化学会賞選考委員会>

- 委員長: 河口洋一郎(本学会理事, 東京大学大学院 教授)
- 委員: 井口 壽乃(埼玉大学教養学部 教授)
- 稲垣 耕作(本学会理事, 元京都大学大学院 准教授)
- 片方 善治(本学会理事, 名誉会長)
- 須藤 修(本学会理事, 会長, 東京大学大学院 教授)
- 森山 朋絵(東京都現代美術館 学芸員)

7. 『情報文化学会誌』への論文投稿

◆締切日

各巻第1号への投稿: 3月15日(消印有効)

各巻第2号への投稿: 7月10日(消印有効)

詳細は、「情報文化学会誌投稿規定」の「3. 投稿の手続き」(<http://www.jouhou-bunka.jp/old/journal/tokokitei161105.pdf>)をご参照ください。

「JICS 便り」 名誉会長 片方 善治 —着眼大局・着手小局の志—

2000年代は、インターネットによって人と情報をつなぐ時代であった。今日は、モノとモノをつなぐインターネット“IoT”の時代である。この時代の潮流としては、ビッグデータ、AIなどのインテリジェント ICT(情報通信技術)などがあげられる。この新しい潮流は社会にメリットをもたらしているが、また解決すべき課題を生じさせている。この課題を解決するには、新しい潮流の本質に注目することである。この本質を短くいえば、デジタル・トランスフォーメーションとなる。

情報文化学会は、理念系・人間系・施設系によって構築されているが、このような学際的体系は、前述の課題解決には有用である。学会員の皆さんが、この認識のもとに、新しい潮流の解明に挑んでみることを期待したい。着眼大局・着手小局の志で、じっくりと取り組んでほしい。